



6月4日(木)の「きらめき集会」で、2年生が学習の成果を生かして、「3拍子のリズム」と「きらきら星」(歌詞と音階の歌唱、鍵盤ハーモニカ)を披露してくれました。緊張する場面でありながらも、一人一人が堂々と表現する姿に大きな成長を感じました。

この集会で特に感心したのは、感想交流の場面です。ほとんどの子どもが手を

挙げ、自分の考えや感じたことを伝えようとしていました。発表できたかどうか以上に、「伝えたい」「発表したい」という意欲が全員に見られたことに大きな価値を感じました。

私は、「教室でできていないことは、体育館ではできない」と考えています。大勢の前で自分の考えを伝えることは、子どもたちにとって決して容易なことではありません。

しかし、今回の全員挙手は、体育館という特別な場だから生まれたものではなく、日頃の授業の中で積み重ねられてきた学びの成果そのものだと思います。

友達の話最後まで聞くこと、自分の考えをもつこと、間違いを恐れずに発言すること、自分とは異なる考えに耳を傾けること。このような日々の積み重ねがあるからこそ、子どもたちは大勢の前でも自信をもって手を挙げることができます。体育館で見えた姿は、教室での学びの質を映し出した姿だったのではないのでしょうか。

本校が育成を目指す「読解力」「判断力」「協働力」も、まさに日々の授業の中で育まれるものです。

友達の発言の意味や思いを受け止めることは、**読解力**につながります。

聞いたことや学んだことをもとに自分の考えを形成することは、**判断力**につながります。そして、互いの考えを交流しながら学びを深めることは、**協働力**につながります。

今回の子どもたちの姿からは、感想交流時の成長だけでなく、担任の先生方の日々の丁寧な働きかけと、本校職員が共通理解のもとで実践を積み重ねてきた成果を感じました。全員が手を挙げようという姿は、決して偶然生まれたものではありません。子どもたちの可能性を信じ、一人一人に寄り添いながら日々の授業づくりを積み重ねてこられた担任の先生の実践の賜物です。そのご尽力に心から敬意と感謝を表したいと思います。

私は、教育の成果を測る最も確かな物差しは、子どもたちの姿であると考えています。

前回のきらめき集会後には、高学年に対して「木上小学校のゴールの姿を示してほしい」という願いを伝えました。一方で、今回の姿は、学年の高低に関係なく、適切な指導と環境があれば子どもたちは期待以上に成長することを改めて教えてくれました。

これからも、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を全職員で共有しながら、「今日の授業でどのような力を育てるのか」を意識した実践を積み重ねていきましょう。

つながる教育・つなげよう実践 021 0608 体育館で見える姿は、教室での学びの成果  
その積み重ねが、教室での学びを変え、やがて体育館や学校全体で見られる子どもの姿  
へとつながっていくはずです。

子どもたちの成長を信じ、全  
職員で同じ方向を向きながら、  
「読解力」「判断力」「協働力」を  
育む授業及び学級づくりに取り  
組んでいきましょう。

